

施策番号	2101	成果指標					
		指標名	単位	区分	H29	H30	R1
施策名	多様な学びと交流の機会を整え、自主的な学習活動を支援します	日頃から学習や習い事を行っている区民の割合	%	目標	27.0	27.3	27.5
				実績	27.0	26.7	29.2
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

		事務事業	担当課	区分	頁
	計画	かつしか区民大学事業の推進	生涯学習課	◎	1271
	計画	郷土と天文の博物館展示事業の充実及び常設展示室の改修等	生涯学習課	◎	1273
		学校施設等開放	教育総務課	◎	1275
		歴史学調査・講座	生涯学習課	◎	1277
		考古学調査・講座	生涯学習課	◎	1279
		民俗学調査・講座	生涯学習課	◎	1281
		天文学調査・講座	生涯学習課	◎	1283
		プラネタリウム番組制作	生涯学習課	◎	1285
		館だより等発行（郷土と天文の博物館）	生涯学習課	◎	1287
		子どものための博物館講座	生涯学習課	◎	1289
		郷土と天文の博物館ホームページの改修	生涯学習課	◎	1291
		生涯学習人材バンク	生涯学習課	◎	1293
		生涯学習援助制度	生涯学習課	◎	1295
		出前教室	生涯学習課	◎	1297
		成人対象講座	生涯学習課	◎	1299
		地域教育機関連携事業	生涯学習課	◎	1301
		学習相談・学習情報の提供	生涯学習課	◎	1303
		リーダー育成等	生涯学習課	◎	1305
		I C T推進事業	生涯学習課	○	1307
		維持管理（郷土と天文の博物館）	生涯学習課	○	1308
		学び交流まつり	生涯学習課	○	1309
		寄贈・収集資料整理	生涯学習課	○	1310
		工芸教室	生涯学習課	○	1311
		社会教育委員の会議の運営	生涯学習課	○	1312

※「計画」は、後期実施計画に位置付けている事務事業であることを表します。

※「◎」は、事務事業評価表を作成した事務事業であることを表します。

※「○」は、事務事業一覧表を作成した事務事業であることを表します。

事務事業評価表

事務事業名	かつしか区民大学事業の推進						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成22年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(8)	
事務事業目的	多様な学習の場として、区民の自己実現を支援する。また、様々な地域活動や市民活動の担い手・リーダーとして活躍し、地域に貢献できる人材の育成に努める。										
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域を知り、まちを感じ、葛飾を愛する『葛飾学』」、「かつしかひとづくり・まちづくり・未来づくり」、「生きがいを創造する知識・教養百科」の3つの柱に基づく講座（104講座）を展開（うち10講座、台風19号及び新型コロナウイルスの影響により中止） ○理事会、庁内連絡会の実施 ○公募区民による区民運営委員会を設け、区との協働による事業（6講座）の企画・運営（うち1講座、新型コロナウイルスの影響により中止） ○他課との連携による事業の実施 ○東京理科大学などの教育機関や各種団体との連携講座の実施（21講座のうち2講座、新型コロナウイルスの影響により中止） ○学習単位認定制度の実施 ○区民大学情報誌「まなびぶらす」の発行及び、メルマガ「まなびぶらす」の配信 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	団体との連携・協働講座数	区民団体との連携・協働により実施する講座数	講座	目標	—	—	24
				実績	—	—	19
成果	講座受講満足度	かつしか区民大学単位認定講座を受講した際の満足度（アンケート集計）	%	目標	—	—	50
				実績	—	—	90
活動	区民大学単位認定講座数	—	講座	目標	80	83	100
				実績	103	102	94
活動	特別講演会の実施数	—	講座	目標	4	4	5
				実績	4	4	5
活動	区民や団体との協働による講座の団体数	—	講座	目標	12	13	10
				実績	10	9	10
活動	かつしか区民大学単位認定講座の延べ受講者数	—	人	目標	10,000	10,300	9,500
				実績	9,118	8,347	7,724

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	548	492	693
		その他	253	139	56
	一般財源 (a)	59,760	50,320	50,171	
支出	直接事業費 (b)	8,061	9,286	9,165	
	職員人件費 (c)	52,500	41,665	41,755	
		業務量（人）	7.00	5.65	5.65
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	5,700	4,750	4,275	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	5,700	4,750	4,275	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	66,261	55,701	55,195	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	受講者数（人）		
実績数値 (g)	9,118	8,347	7,724
単位あたり区単コスト (a/g)	6,554	6,029	6,495
単位あたりコスト (f/g)	7,267	6,673	7,146

実施状況に対する評価	<p>かつしか区民大学で300単位を取得した受講者を対象とした新たな単位認定区分「かつしかアカデミック賞」を設け、10周年記念講演会では授与式を実施し、より広く区民大学の周知を図った。</p> <p>また、新しい団体連携の講座や、東京2020オリンピック・パラリンピックの機運を高めることを目的とした講座を実施するなど、幅広い講座を企画した。</p> <p>しかし、台風19号や新型コロナウイルスの影響により、10講座を中止したため、それに伴い受講者数も減少となった。</p>
今後の方向性【改善】	<p>令和2年度は、他所管の講座内容の一層充実と区民への周知が図れるよう、他部課との連携を進めながら、講座メニューの充実を図っていく。</p> <p>また、後期実施計画から量より質への転換を図り、学びから実践へつなげる仕組みづくりを検討していく。</p> <p>あわせて、かつしか区民大学のPRや区ホームページでの申込方法の改善など、より多くの受講希望者を募ることに繋がる取組みについて、他の自治体の類似事業の動向等も参考にしながら、既存の区ホームページの見直しを含めて一段と効果的な方法を検討していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	郷土と天文の博物館展示事業の充実及び常設展示室の改修等						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成25年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(6)	
事務事業目的	博物館ボランティアや区民との協働を進め、様々な事業展開を図るため、施設改修を計画的に行う。 これらの取組を通じて、郷土かつしかと天文に対する関心を高めるとともに理解を深め、区民に愛される誇りとされる、何度も訪れたい博物館にしていく。										
実施内容	<p>○施設・設備 郷土と天文の博物館は、様々な事業展開を進める上で必要な施設改修を中期実施計画及び後期実施計画において実施し、プラネタリウム機器更新により全国的に評価の高いプラネタリウム番組のクオリティの更なる向上を図るとともに、常設展示室の展示内容を更新し、観望会・講座・展示解説等の博物館ボランティアの活動をしやすいとする。 【令和元年度実績】 常設展示室の改修（令和元年6月より履行開始。令和元年10月から令和2年11月まで部分休館し改修）</p> <p>○特別企画展示室での展示 【令和元年度実績】 平成31年3月31日～5月6日：写真パネル展示（企画展）「葛探写真館～立石の今と昔から～」 7月20日～9月1日：特別展「オリンピック・パラリンピックと葛飾」</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	郷土と天文の博物館入館者数	—	人	目標	57,000	70,000	74,000
				実績	56,955	56,191	53,036
成果	ボランティア団体講座等回数	ボランティアが主体となって実施している講座・イベント等の開催回数	回	目標	—	—	170
				実績	151	154	145
活動	常設展示室、プラネタリウム等の改修	—	—	目標	天文常設展示室、プラネタリウム等の改修	常設展示室改装設計	常設展示室改修
				実績	実施	実施	実施

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	38	2,158
	一般財源 (a)	418,112	251,714	152,205	
支出	直接事業費 (b)	405,425	245,014	150,103	
	職員人件費 (c)	11,125	5,430	4,260	
		業務量（人）	1.50	0.75	0.60
	間接費 (d)	1,562	1,308	0	
	調整額 (e)	1,188	600	405	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	1,188	600	405	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	419,300	252,352	154,768	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	入館者数（人）		
実績数値 (g)	56,955	56,191	53,036
単位あたり区単コスト (a/g)	7,341	4,480	2,870
単位あたりコスト (f/g)	7,362	4,491	2,918

実施状況に対する評価	<p>入館者数の減少は常設展示室の改修に伴う部分閉館や、新型コロナウイルスの影響による臨時休館によるものであり、通年で減少したものではないが、増加傾向にあるとは言えない状況である。また、特別展の観覧者数については昨年度とほぼ同数である。</p> <p>一方、特別展の内容面で、令和元年度は区民との協働による資料調査及び展示の実施、競技体験コーナーにおいて2020大会に向けた応援メッセージの回答を多数得るなど、「協働」や「体験」の面で今後の展示企画の充実につながる内容で実施することができた。</p>
今後の方向性【改善】	<p>特別展・企画展だけでなく、常設展示においても「協働」や「体験」といった要素を加味することで、より魅力ある展示内容としていく。また、常設展示室（改修後は随時展示物が変更可能）での展示と連携した特別展・企画展とすることで、各展示から新たな興味を引き出し、再訪を促せるよう、中長期的な視点で展示内容を企画・検討する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	学校施設等開放						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	教育総務課			
開始年度	平成15年度						個別計画	—			
根拠法令	葛飾区立学校施設使用条例										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	7(1)①	等
事務事業目的	地域に開かれた学校としての機能を増進するため区民の施設利用を推進する。										
実施内容	<p>【概要】 小・中学校の学校施設を学校教育上支障のない範囲で、区民（一般及び登録団体）に供する。校庭、体育館・ミーティングルーム・会議室・和洋室等</p> <p>【業務委託導入】 実施体制の強化を目的として、遊び場開放に業務委託を導入（令和元年度8校）</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	利用者総数	—	人	目標	900,000	900,000	900,000
				実績	878,816	884,516	818,727
活動	利用可能施設数	—	施設	目標	250	250	250
				実績	226	220	214
活動	利用件数	—	件	目標	—	—	—
				実績	43,612	44,275	41,326
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	6,727	6,759	6,376
	一般財源 (a)	177,228	166,810	175,387	
支出	直接事業費 (b)	65,754	79,594	88,977	
	職員人件費 (c)	112,350	89,430	88,020	
		業務量（人）	16.80	13.20	12.60
	間接費 (d)	5,851	4,545	4,766	
	調整額 (e)	9,975	8,700	8,100	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	9,975	8,700	8,100	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	193,930	182,269	189,863	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	サービス提供回数（利用件数）（件）		
実績数値 (g)	43,612	44,275	41,326
単位あたり区単コスト (a/g)	4,064	3,768	4,244
単位あたりコスト (f/g)	4,447	4,117	4,594

実施状況に対する評価	学校開放は、旧学校も含む77小・中学校の校庭、体育館・ミーティングルーム・会議室・和洋室等を開放し、元年度実績では、利用件数41,326件、利用者数818,727人に上り、区民のスポーツ活動、文化活動に広く利用されている。
今後の方向性【継続】	多くの区民の活動の場として学校開放は利用されており、執行体制の整備を進めながら引き続き開放していく必要がある。

事務事業評価表

事務事業名	歴史学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(2)	
事務事業目的	葛飾の歩んできた姿や当時の社会状況を学ぶことにより、正確な歴史観を身につけ、地域史への興味・関心を高める。										
実施内容	<p>○葛飾区の歴史に関する講座 水害等の災害、地形、花菖蒲、各種文化財に関する講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史教養講座 1回 ・鉄道史講座 1回 ・環境学講座 1回（令和元年度は新型コロナウイルスの影響により中止） ・河川環境学講座 1回 <p>○歴史資料（文書等の紙資料）の整理・保存・管理</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	参加者満足度	好評回答数／アンケート回収数×100	%	目標	95	95	95
				実績	95	95	95
活動	講座参加者数	歴史講座等への参加者数	人	目標	500	500	500
				実績	241	227	114
活動	講座実施回数	—	回	目標	10	10	10
				実績	4	4	4
活動	講座事業種類数	—	種	目標	6	6	6
				実績	4	4	4
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	69	429	193
	一般財源 (a)	5,287	6,684	5,648	
支出	直接事業費 (b)	1,769	2,255	1,940	
	職員人件費 (c)	2,025	3,550	3,610	
		業務量（人）	0.45	0.70	0.70
	間接費 (d)	1,562	1,308	291	
	調整額 (e)	0	100	90	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	0	100	90
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	5,356	7,213	5,931	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	241	227	114
単位あたり区単コスト (a/g)	21,938	29,445	49,544
単位あたりコスト (f/g)	22,224	31,775	52,026

実施状況に対する評価	参加者数の減については新型コロナウイルスの影響によるものであるが、実施した事業についても参加者数は例年どおりであり、目標値に向け増加しているとは言えない状況である。内容については、アンケートで好評を得ており、リピーターを獲得している状況であるが、新規参加者数が少ない状況であり、これまでと異なるテーマや実施方法が必要であると考えられる。
今後の方向性【改善】	好評を得ている既存の講座を継続して実施するとともに、中世から近現代を含めた様々な時代から、区民の関心の高いテーマを検討し、新規参加者を取り込む。広く一般区民に葛飾区の歴史に興味を持ってもらうきっかけとなる講座を展開する一環として、近世期の葛飾区内の状況を知ることができる古文書を読み解く講座を開設する。また、座学形式だけではなく、実際の現場で学べるような講座や、連続参加することでより知識が深まるような実施方法を検討する。

事務事業評価表

事務事業名	考古学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(3)	
事務事業目的	考古学を通じて、区民等の郷土への理解を深めるとともに、郷土愛を育む。										
実施内容	<p>○葛飾区の考古学に関する調査・研究・発表（講座等） 考古学入門講座（全3回・外部講師）や考古学セミナー（全5回・担当学芸員が講師）を29年度まで実施していた。入門講座では、時々の時事テーマに基づく講座内容とし、考古学セミナーは日本全体の歴史の流れの中で葛飾がどのような関わりをもっていたのかをテーマとしている。 令和元年度には考古学講座（1回 外部講師）を実施した。考古学の視点から葛飾の地域的特徴を学べるテーマとした。</p> <p>○博物館考古ボランティア ・葛飾考古学クラブ 活動内容：区内の遺跡出土の整理、考古資料等の周知事業 平成29年度から、活動の中心を発掘資料の周知（普及・啓発）とし資料整理を進めている。令和元年度は整理作業を来館者に公開や資料に触れる機会を設け、資料の周知を試行した。</p> <p>・葛飾探検団（活動内容：区内の失われつつある風景などの記録・展示） 平成29年度は、活動テーマを「葛飾柴又の文化的景観」とし、調査・展示事業を実施した。平成30年度は立石地区の定点観測を行った。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	参加者満足度	好評回答数/アンケート回収数×100	%	目標	95	95	95
				実績	95	0	95
活動	講座参加者数	—	人	目標	1,350	1,350	1,350
				実績	761	0	68
活動	講座実施回数	—	回	目標	22	22	22
				実績	10	0	1
活動	講座事業種類数	—	種	目標	10	10	10
				実績	3	0	1
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	925	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	148	386	167
	一般財源 (a)	10,023	9,269	6,911	
支出	直接事業費 (b)	4,226	2,327	1,759	
	職員人件費 (c)	業務量（人）	0.45	0.55	0.40
		間接費 (d)	3,270	2,983	2,159
	調整額 (e)	428	550	360	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	428	550	360	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	11,524	10,205	7,438	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	761	0	68
単位あたり区単コスト (a/g)	13,171	—	101,632
単位あたりコスト (f/g)	15,143	—	109,382

実施状況に対する評価	<p>博物館考古ボランティアは年間20回以上と意欲的に活動しており、参加者数も安定している。また、資料を活用した遺跡や考古資料の周知も試行した。なお、平成30年度についてはこれまで発掘してきた資料が膨大となっていることを踏まえ、資料整理に注力したことから講座実施回数が0回となっている。</p> <p>以上より、区民等の郷土への理解を深めるとともに、郷土愛を育むという事業目的は達成できていると考えている。なお、葛飾探検団の活動内容は考古よりも民俗分野に近いため、令和元年度より民俗学調査・講座で実施している。</p>
今後の方向性【継続】	<p>博物館考古ボランティアの活動については、発掘調査を中心としたものから、今までに発掘された資料を広く区民に周知し、発掘資料を活用して教育普及を図る事業を検討する。令和元年度は実物の資料を活用した来館者向けの体験型事業を試行した。地域の遺跡や考古資料に興味、関心を持つ機会として今後も継続していく。</p> <p>講座については、開催に向けて講師の確保に努める。</p>

事務事業評価表

事務事業名	民俗学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(4)	
事務事業目的	葛飾区の先人たちによって生まれ伝えられてきた生活の知恵や暮らしを支える「わざ」、そしてその「わざ」を支えてきた風土や環境について学び、郷土愛の醸成に繋げる。										
実施内容	<p>○民俗文化（昭和20年代まで、区民の暮らしを支えてきた農業と農村で育まれてきた食文化、川漁師等の産業、年中行事等）を総合的な関連性を持って体験的に学ぶ。 ・農村の文化を学ぶ ・川漁を学ぶ 等</p> <p>○千葉県流山市、福島県塙町等で、かつては葛飾区内で見ることができた自然環境、葛飾区内で行われていた農業・漁業や民俗行事等の体験的に学習すると同時に、農村との交流を図る。 ・川漁師ファンクラブ ・日本酒の文化を学ぶ 等</p> <p>○学芸員や専門調査員を中心に郷土葛飾の地域史（民俗）に関する資料調査や研究を進め、その成果を刊行物や展示を通じて広く区民に公開する。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	参加者満足度	好評回答数/アンケート回収数×100	%	目標	95	95	95
				実績	95	95	95
活動	講座参加者数	—	人	目標	1,200	1,200	1,200
				実績	907	1,002	1,296
活動	講座実施回数	—	回	目標	35	35	35
				実績	31	23	23
活動	講座事業種類数	—	種	目標	8	8	8
				実績	6	6	7
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	95	485	388
	一般財源 (a)	7,081	8,693	7,091	
支出	直接事業費 (b)	2,346	2,737	2,074	
	職員人件費 (c)	2,800	4,740	3,950	
		業務量（人）	0.35	0.60	0.50
	間接費 (d)	2,030	1,701	1,455	
	調整額 (e)	333	600	450	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	333	600	450	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	7,509	9,778	7,929	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	907	1,002	1,296
単位あたり区単コスト (a/g)	7,807	8,676	5,471
単位あたりコスト (f/g)	8,279	9,758	6,118

実施状況に対する評価	<p>民俗学講座は当館事業の中でも、講座数・参加者数が多く、参加者数は目標値を上回っており、一定の成果がみられる。昔ながらの農法・漁法・食文化を後世に伝える役割として重要であり、一部講座はリピーターも多く、抽選を行っている状況である。なお、体験型講座が多く、主に屋外で実施するため、天候によって実施回数・参加者数に影響が出る。</p>
今後の方向性【継続】	<p>最小限の職員で成果を高めるため、当館の特徴であるボランティア団体との協働による講座実施が重要であると考えられる。現状として、ボランティア団体単独での講座実施は困難であるが、中長期的に目標を立て、ボランティア団体が主体となって事業を企画・立案から運営までできるよう活動を支援し、講座実施数や参加者数の増加に繋げられるよう検討を行う。また、博物館をフィールドとしてボランティアが行ってきた葛飾区の民俗や歴史に基づいた体験学習事業を今後区民向けに開放していくことを検討していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	天文学調査・講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(5)	
事務事業目的	さまざまな天文学習の機会を提供し、区民の科学的思考力や正確な宇宙観を育んでいく。										
実施内容	<p>天文に関する講座等</p> <p>○プラネタリウムを使った講座 ・星の講演会 外部講師を招いて天文に関する最新情報を紹介する。 6回程度/年</p> <p>○ボランティアによる講座 ・かつしか宙トーク（気軽に聞くことができる入門講座） 15回程度/年 ・おとなのための宇宙塾（宇宙塾ジュニア参加者の親向け講座） 5回程度/年</p> <p>○かつしか星空散歩他 博物館天文ボランティアによる観望会 ・かつしか星空散歩（毎週金・土） ・移動観望会・・・29、30年度は雨天中止</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	参加者満足度	好評回答数/アンケート回収数×100	%	目標	91	91	91
				実績	92	90	91
活動	講座参加者数	—	人	目標	4,000	4,000	4,000
				実績	2,703	3,198	3,553
活動	講座実施回数	—	回	目標	110	110	110
				実績	94	104	98
活動	講座事業種類数	—	種	目標	10	10	10
				実績	7	6	4
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	305	511	239
	一般財源 (a)	2,833	5,559	6,365	
支出	直接事業費 (b)	464	1,340	617	
	職員人件費 (c)	800	3,160	3,950	
		業務量（人）	0.10	0.40	0.50
	間接費 (d)	1,874	1,570	2,037	
	調整額 (e)	95	400	450	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	95	400	450	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	3,233	6,470	7,054	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	講座参加者数（人）		
実績数値 (g)	2,703	3,198	3,553
単位あたり区単コスト (a/g)	1,048	1,738	1,791
単位あたりコスト (f/g)	1,196	2,023	1,985

実施状況に対する評価	<p>研究者による最新の天文情報をプラネタリウムの映像を使いながら解説する「星の講演会」は、常に定員前後の応募があり、参加者の満足度も高い。</p> <p>また、博物館天文ボランティアによる「かつしか星空散歩」（観望会）や「かつしか宙トーク」（ミニ講座）等については、140人のボランティアとの協働により実施している。特に観望会は、週2回の頻度で開催し、令和元年度は2,494人が参加している。日本公開天文台協会の公開天文台白書によると博物館・科学館の観望会の年間平均参加者数は1,289人であり、参加者数は全国的にもかなり多く、満足度も高い。平成30、令和元年度は、ボランティアによるミニ講座の一部を、改修された天文展示室で試行した。天文展示室はプラネタリウムの近くにあるため、プラネタリウムの観覧者が観覧前後に気軽に参加できるようになった。その内容も、展示と連動して展示への理解と関心をさらに深めるようなものであり、参加者からも好評であった。</p>
今後の方向性【改善】	<p>「星の講演会」は、評価の高いこれまでの形での実施形態を継続しつつ、様々な区民ニーズに対応できるより実施日時・会場・講師の選定方法を工夫した新しい発想での講演会も試行していく。</p> <p>博物館天文ボランティアとの協働を継続するとともに、天文ボランティアのさらなる育成を図る。特に、展示室を活用した講座・イベントを想定した研修を行い、天文展示室でのボランティア事業をさらに充実させ、展示を見るだけでなく、参加・体験しながら学ぶことができる展示室を目指す。</p> <p>新型コロナウイルスに伴う「新しい生活様式」に対応した講座・イベントの実施方法について検討する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	プラネタリウム番組制作						担当部	教育委員会事務局	関係課	—
							担当課	生涯学習課		
開始年度	平成3年度						個別計画	—		
根拠法令	—									
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(7)
事務事業目的	<p>プラネタリウムを活用し、区民等に最新の科学・宇宙の情報を発信し、科学や宇宙について「知る・学ぶ・考える・体験する」面白さを実感していただき、科学教育の促進を図る。</p>									
実施内容	<p>特徴は「他では見られないオリジナル番組を制作していること」、「天文職員による生の解説で放映していること」、「プラネタリウム機器の機能を生かし、最新の宇宙の情報を臨場感のある映像で紹介していること」である。</p> <p>制作にあたっては、内外の天文研究機関や宇宙開発機関と連携して最新のデータを取り入れるほか、オリジナルの映像制作にも取り組んでいる。</p> <p>一般向けの「季節の番組」のほか、「こども番組」、「プラネタリウムコンサート」、小・中学校向けの「学習番組」、幼稚園・保育園児向けの「幼児番組」などを制作しており、生解説により観覧者に合わせたり最新情報を取り入れたりしながら放映している。</p> <p>【過去の実績等】</p> <p>平成21年度：ハワイのイミロア天文学センターとプラネタリウム番組を共同制作した。</p> <p>平成24年度：国際プラネタリウム協会総会併催イベント「ドームフェスト2012」において、「シンフォニー・オブ・ユニバース第3番」が最終選考作品に選出され、会場で放映された。</p> <p>平成27年度：全国7プラネタリウムと共同で、国際宇宙ステーション(ISS)内の油井宇宙飛行士とライブ交信事業を実施した。</p> <p>令和元年度：国際研究チームによるブラックホールの撮影成功のニュースを受け、発表翌日に海外からの素材やデータに基づく解説映像を制作、NHKの全国ニュースで報道された。</p>									

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	観覧者満足度	番組終了後に実施しているアンケートの結果(好評回答数/アンケート回収数×100)	%	目標	95	95	95
				実績	89	85	90
成果	プラネタリウム観覧者数(学習放映を含む)	通常番組、学習番組、幼児番組、企画番組の観覧者	人	目標	39,000	39,000	45,000
				実績	33,648	42,592	43,360
活動	1年間のプラネタリウム番組の自主制作数	—	本	目標	4	10	10
				実績	10	5	7
活動	1年間の放映数	—	回	目標	600	600	930
				実績	653	816	914
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	3,997	6,640	6,223
	一般財源 (a)	15,674	21,514	35,918	
支出	直接事業費 (b)	6,880	17,018	29,255	
	職員人件費 (c)	2,800	2,765	3,555	
		業務量（人）	0.35	0.35	0.45
	間接費 (d)	9,991	8,371	9,331	
	調整額 (e)	333	350	405	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	333	350	405	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	20,004	28,504	42,546	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	プラネタリウム観覧者数(人)		
実績数値 (g)	33,648	42,592	43,360
単位あたり区単コスト (a/g)	466	505	828
単位あたりコスト (f/g)	595	669	981

実施状況に対する評価	<p>デジタルプラネタリウムの機能を生かした生解説によるオリジナル番組は、様々なメディアにも取り上げられ、全国的にも高い評価を得ている。令和元年度も、最新のブラックホールの情報（ヨーロッパ南天天文台）、小惑星リュウグウ（JAXA）、新たに発見された土星衛星20個の軌道データ（NASA）など、内外の研究機関が公開したデータをいち早く取り入れた映像制作を行い、最新の研究成果をわかりやすく紹介した。</p> <p>何度も訪れる年間パスポートの利用者も多く、土日祝日については満席になる上映回もあり、アンケートでも90%が「良かった」と回答しているなど、観覧者の評価も高い。</p> <p>なお、プラネタリウム及び天文展示室の改修により平成29年11月から30年6月まで、また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年2月からプラネタリウム投影を休止しており、過去3年度はいずれも通年で投影を行っていない。</p>
今後の方向性【改善】	<p>当館プラネタリウム番組の特徴である、オリジナル番組の生解説投映は継続していく。</p> <p>博物館ウェブサイトを活用し、番組の特徴の紹介や、番組で取り上げた内容のさらに詳しい解説を行うほか、平成30年度のリニューアル以前に制作した番組を新しい機器に移植しアンコール上映できる番組を増やし、番組の選択肢を充実させるなどの工夫を行っていく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	館だより等発行（郷土と天文の博物館）						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(9)	
事務事業目的	区民に博物館事業や調査・研究の成果を知っていただき、博物館への興味を増進させ、併せて生涯学習に意欲を持たせる。										
実施内容	博物館事業の周知や学芸員による調査・研究の成果を刊行物を通して公開するとともに、情報・資料の蓄積を図る。 ○博物館だよりの発行（5,000部／年3回） ○博物館だよりジュニア（32,000部／年1回） ○調査・研究成果の書籍化 平成27年度：館収蔵古文書目録1発行 500部作成 平成28年度：館収蔵古文書目録2発行 500部作成 平成29年度：館収蔵古文書目録3発行 500部作成 平成30年度：館収蔵古文書目録4発行 500部作成 令和元年度：館収蔵古文書目録5発行 500部作成 ＊ 現在、博物館の年間活動（調査成果、展示事業、講座等）を記載した紀要は発行していないが、特別展・企画展の図録で研究成果を公表している。										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	報告書等の販売部数	博物館作成の報告書等の年間販売部数	部	目標	5,000	5,000	5,000
				実績	4,618	6,394	4,627
活動	博物館だより、博物館だよりジュニアの発行部数	—	部	目標	47,000	47,000	47,000
				実績	47,000	47,000	47,000
活動	刊行物作成部数（博物館だより・ポスターを除く）	博物館での刊行物の年間作成部数	部	目標	500	500	500
				実績	500	500	500
活動	刊行物の種類	博物館における年間の刊行物の作成種類	種	目標	4	4	4
				実績	3	3	3
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	1,786	0	158
	一般財源 (a)	2,451	5,625	5,533	
支出	直接事業費 (b)	1,455	1,709	1,859	
	職員人件費 (c)	2,625	3,785	3,395	
		業務量 (人)	0.35	0.50	0.45
	間接費 (d)	157	131	437	
	調整額 (e)	285	450	360	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	285	450	360	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	4,522	6,075	6,051	

単位当たりコスト (円)	H29	H30	R1
単位の定義	報告書等の販売部数 (部)		
実績数値 (g)	4,618	6,394	4,627
単位あたり区単コスト (a/g)	531	880	1,196
単位あたりコスト (f/g)	979	950	1,308

実施状況に対する評価	博物館だよりは、実施イベントを定期的に周知し、イベント等への参加を促すとともに、館の魅力やPRする効果がある。各講座等のアンケートでも、博物館だよりで講座を知った参加者も少なからず存在している。特に、夏休み前に区内の小中学校に配布している博物館だよりジュニアは、夏休み期間のイベントを掲載し、子ども向け講座等への参加や家族での来館を促す効果がある。
今後の方向性【継続】	子どもだけではなく、より多くの方に博物館事業をアピールするため、読みやすく分かりやすい博物館だよりの紙面づくりを工夫していく。また、動画配信サービスを活用して、イベントの内容や館の魅力を紹介したり、QRコードを利用するなど、ホームページと連携した周知方法を検討する。なお、紀要については現在は発行していないが、今後は定期的な発行について検討を行う。

事務事業評価表

事務事業名	子どものための博物館講座						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成3年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(11)	
事務事業目的	<p>児童・生徒が、講座や体験学習を通じて、区内の歴史・文化・自然等について主体的に学ぶ意識と、正しい知識を持つようにする。</p>										
実施内容	<p>小・中学生とその保護者を対象に、歴史・民俗・考古・天文・埋蔵文化財の各分野で講座・体験学習・工作教室などを行う。なお、歴史講座以外の各講座については各分野のボランティアとの協働により事業を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史：人車ペーパークラフト ・民俗：田んぼジュニア、江戸川野遊び道場、収穫体験教室、紙芝居教室、竹とんぼ教室、ミニ門松づくり教室、竹細工教室、ザリガニ釣り ・民俗・天文：湯しぼりで作る月 ・天文：望遠鏡を作ろう、星の学校、かつしか宇宙塾、かつしか宇宙塾ジュニア ・埋蔵文化財：拓本教室 ・館全体：博物館まつり 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	参加者満足度	好評回答数／参加者アンケート数×100	%	目標	92	92	92
				実績	92	92	92
活動	講座参加者数	子どもを対象とした講座等の参加者数	人	目標	7,000	7,000	7,000
				実績	5,341	5,299	4,488
活動	講座実施回数	子どもを対象とした講座等の開催回数	回	目標	70	70	70
				実績	57	60	57
活動	講座事業種類数	子どもを対象とした講座等の種類	種	目標	18	18	18
				実績	14	14	15
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	1,191	1,547	1,418
	一般財源 (a)	6,403	10,357	8,129	
支出	直接事業費 (b)	3,320	3,517	3,762	
	職員人件費 (c)	3,025	7,340	4,185	
		業務量 (人)	0.40	0.95	0.55
	間接費 (d)	1,249	1,047	1,600	
	調整額 (e)	333	900	450	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	333	900	450	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	7,927	12,804	9,997	

単位当たりコスト (円)	H29	H30	R1
単位の定義	講座参加者数(人)		
実績数値 (g)	5,341	5,299	4,488
単位あたり区単コスト (a/g)	1,199	1,955	1,811
単位あたりコスト (f/g)	1,484	2,416	2,227

実施状況に対する評価	各講座とも、子どもたちの関心が高いことから継続的に実施している。特に親子での体験講座は人気があり、応募が多い状況である。また、講座を通じて、区の歴史や昔の生活等を学ぶため、郷土葛飾への意識向上の面でも効果があると考えられ、子どもたちが主体的に学ぶ意識と、正しい知識を持つという事業目標は達成できている。
今後の方向性【改善】	現在、子どものための事業として実施しているものの多くが、民俗及び天文分野に係るものである。この2分野の事業についてはアンケート等を参考に、区民の意見を反映した、より満足度の高い内容を検討する。 また、今後は区として文化財の活用が求められており、その一環として子どもの時から文化財に親しみを持てるような講座を企画・検討する。

事務事業評価表

事務事業名	郷土と天文の博物館ホームページの改修						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成22年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	2(13)	
事務事業目的	<p>区民等にホームページを活用して博物館の情報を発信し、来館行動へと導くとともに、ホームページの1コンテンツ「デジタルアーカイブ」で区民等が手軽に収蔵資料の情報を得られるようにする。</p>										
実施内容	<p>郷土と天文の博物館ホームページシステムのリプレースを実施し、令和元年12月に博物館ホームページを開設した。 収蔵資料（需要が見込まれるものや展示室で公開されていないもの、当館の強み（天文分野）、展示会の内容に関連したもの等）の公開や、特別展・企画展、各種講座、プラネタリウムの情報など、博物館の活動状況の情報を発信している。 また、博物館ホームページでは情報発信だけに重点を置かず、こども向けコンテンツ（博物館クイズやパズルなど）や博物館ブログなど、楽しみながら郷土かつしかや天文について学べ、博物館にも興味を持ってもらえるようなコンテンツを新たに追加した。 ホームページがリニューアルしたことについては、広報かつしかや区公式ホームページにおいて周知を行った。</p> <p>【博物館ホームページの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の基本情報（開館日時、利用料金、アクセス等） ・常設展示など館内施設の案内・解説 ・郷土・天文の各分野のイベント情報 ・プラネタリウム番組の紹介・放映スケジュール ・特別展・企画展の紹介 ・指定・登録文化財や埋蔵文化財、葛飾柴又の文化的景観の情報 ・デジタルアーカイブ(収蔵資料の公開) ・こども博物館(こども向けコンテンツ。博物館クイズやパズル) ・旧教育資料館の情報 ・博物館ブログ ・博物館の刊行物の紹介、実施事業報告、広報資料提供 ・ボランティアの活動内容紹介と募集概要 <p>ホームページの公開開始：平成23年4月1日 リプレース期間：令和元年6月～12月 新ホームページ本稼働：令和元年12月19日</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	ホームページへのアクセス回数(閲覧ページ数)	博物館開設のホームページ閲覧回数(閲覧ページ数)	回	目標	800,000	600,000	600,000
				実績	551,327	593,291	667,922
活動	コンテンツの追加	こども博物館及び博物館ブログ等コンテンツの更新回数	回	目標	—	—	3
				実績	—	—	2
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）			H29	H30	R1
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	(a)	5,872	5,934	47,217
支出	直接事業費	(b)	2,106	1,868	42,624
	職員人件費	(c)	800	1,580	1,975
		業務量（人）		0.10	0.20
	間接費	(d)	2,966	2,486	2,618
	調整額	(e)	95	200	225
	減価償却費		0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	95	200	225
		(控) コスト対象外	0	0	0
トータルコスト	(f=b+c+d+e)	5,967	6,134	47,442	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1	
単位の定義	ホームページへのアクセス回数（回）			
実績数値	(g)	551,327	593,291	667,922
単位あたり区単コスト	(a/g)	11	10	71
単位あたりコスト	(f/g)	11	10	71

実施状況に対する評価	<p>アクセス数は30年度と比較し、増加した。これまでのホームページよりもポップで分かりやすいデザインにしたことや子ども向けコンテンツ（博物館クイズやパズルなど）、博物館ブログなどの楽しめるコンテンツを追加したこと、また、新ホームページの周知がアクセス数増加に繋がったと考えられる。</p> <p>また、新たに追加したコンテンツの更新などにより全体の更新回数も増加し、これまでよりも積極的な更新ができた。</p> <p>これまでのデジタルミュージアムでは、利用されている分野や資料は一部に偏っており、特徴のないものやニーズのない資料が多く公開されていることにより需要のある資料が埋もれてしまうおそれがあった。このため、公開資料の見直しを行い、需要が見込まれるものや展示室で公開されていないもの、当館の強み（天文分野）、展示会の内容に関連したものに絞り公開する方針とした。これにより、収蔵資料の検索がし易くなった・見易くなった等の意見もあり、使い易さの向上に繋がった。</p>
今後の方向性【改善】	<p>情報の確認の利用だけでなく定期的にホームページに訪問してもらえるよう、新たに追加した子ども向けコンテンツ（博物館クイズやパズルなど）や博物館ブログなどの楽しめるコンテンツを、特定の分野に偏ることのないよう定期的に更新を行う。</p> <p>今後発行される博物館パンフレットや博物館だより、各イベントや展示会のポスター・チラシ等でHPのQRコードの掲載を行うなど、新ホームページの周知を積極的に行っていく。</p> <p>新型コロナウイルス対策に伴う新たな生活様式に対応するため、ホームページを活用した情報発信の強化を検討する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	生涯学習人材バンク						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成7年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	1(2)	
事務事業目的	生涯学習に関する指導者等の人材を発掘し活用することにより、区民の生涯にわたる文化・教養活動やスポーツ・レクリエーション活動等の促進及び発展を図り、もって区民が互いに学びあえる体制の確立を図る。										
実施内容	<p>【概要】 様々な分野の学習指導者等の人材を発掘し、活用するシステムをつくることにより、生涯学習の振興を図るために平成7年度から開始した。</p> <p>【活動内容】 ○専門的知識・技能・資格・豊富な経験を有し、ボランティアとして学習指導を希望する方を、区民講師として登録受付を行う。 ○登録者の人材情報を区ホームページ、学び交流館（4館）、生涯学習課で提供する。 ○講師を探している方から情報提供申請があった場合に、登録者の人材情報を提供する。 ○登録者の人材情報は事業実施要綱に基づき3年ごとに更新する。</p> <p>【過去の改善実績】 生涯学習人材バンクの活用の拡大を図るために、個人情報保護に配慮しつつ、区ホームページへ詳細な人材情報を掲載した。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	情報提供数	—	件	目標	100	100	100
				実績	74	49	39
活動	講師活動数	—	件	目標	50	50	50
				実績	9	5	2
活動	情報提供窓口数	—	箇所	目標	5	5	5
				実績	5	5	5
活動	人材バンク登録者数	—	人	目標	220	220	220
				実績	183	175	163
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	1,609	796	806	
支出	直接事業費 (b)	9	6	16	
	職員人件費 (c)	1,600	790	790	
		業務量 (人)	0.20	0.10	0.10
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	190	100	90	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	190	100	90	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	1,799	896	896	

単位当たりコスト (円)	H29	H30	R1
単位の定義	人材バンク登録者数 (人)		
実績数値 (g)	183	175	163
単位あたり区単コスト (a/g)	8,792	4,549	4,945
単位あたりコスト (f/g)	9,831	5,120	5,497

実施状況に対する評価	<p>人材バンクに登録する指導者が多様化し、それに伴い学習できる項目数も増加しており、区民が互いに学びあえる体制を確立するとの事業目的は、達成できているものと考えている。課題としては、人材バンクへの指導者登録数と比較して情報提供数は年度により増減があり、指導者の活動機会が得られないことも多いため、更新に合わせて指導者登録を辞退する方も見受けられることが上げられる。</p>
今後の方向性【継続】	<p>人材バンクの指導者数及び利用者数を伸ばすため、区ホームページに加えて広報かつしかを活用する等、区民への浸透に取り組んでいく。また、指導者からの指導内容の報告や利用者からのアンケートの提出等により、指導内容を把握し、必要に応じて、区民講師の資質向上と講習技術の習得を図るため、区民講師に対する研修を検討していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	生涯学習援助制度						担当部	教育委員会事務局	関係課	—								
							担当課	生涯学習課										
開始年度	平成6年度						個別計画	—										
根拠法令	社会教育法																	
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(2)								
事務事業目的	区内で活動する団体やサークルが行う学習会に講師を派遣し、学習活動を支援することにより、団体活動の活性化を図る。																	
実施内容	<p>団体が行う自主的な学習会に対して、団体が希望する講師を教育委員会が派遣する。あわせて、団体の求めに応じ、学習会の企画運営や講師選定等についても支援する。</p> <p>○資格要件 主として葛飾区内で活動している5人以上の団体・サークル（会員の半数以上が区内在住、在勤、在学者）</p> <p>○対象学習会 団体が、自主的に主催・運営する学習会であること。</p> <p>○令和元年度実績</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">(1) 連続学習会コース</td> <td style="width: 30%;">4回以上の継続的な学習会への講師派遣</td> <td style="width: 10%;">年間</td> <td style="width: 10%;">10団体</td> </tr> <tr> <td>(2) 1回コース</td> <td>1回の学習会への講師派遣</td> <td>年間</td> <td>60団体</td> </tr> </table>										(1) 連続学習会コース	4回以上の継続的な学習会への講師派遣	年間	10団体	(2) 1回コース	1回の学習会への講師派遣	年間	60団体
(1) 連続学習会コース	4回以上の継続的な学習会への講師派遣	年間	10団体															
(2) 1回コース	1回の学習会への講師派遣	年間	60団体															

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	活性化率	活性化した団体数／実施団体数×100（実績報告書から）	%	目標	90	90	90
				実績	93	83	89
活動	受講者数	—	人	目標	3,000	3,000	3,000
				実績	2,167	2,718	2,402
活動	開催団体数	—	団体	目標	83	83	83
				実績	73	78	70
活動	学習会開催回数（延べ講師派遣数）	—	回	目標	120	120	120
				実績	103	108	110
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	5,360	5,305	5,367	
支出	直接事業費 (b)	2,160	2,145	2,207	
	職員人件費 (c)	3,200	3,160	3,160	
		業務量（人）	0.40	0.40	0.40
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	380	400	360	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	380	400	360	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	5,740	5,705	5,727	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	延べ講師派遣数（回）		
実績数値 (g)	103	108	110
単位あたり区単コスト (a/g)	52,039	49,120	48,791
単位あたりコスト (f/g)	55,728	52,824	52,064

実施状況に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため応募したものの中止をした団体が5団体あったため、開催団体数、受講者数が平成30年度を下回った。</p> <p>実施報告書で、本事業が「会の活性化に役だった」と答えた団体が89%と、高評価を得ており、前年度の83%に比べて上昇した。この活性化率は、1回コースが90%に対し、連続学習会コースは80%と、比較的低くなっている。</p>
今後の方向性【改善】	<p>区民・団体にとってより活用しやすい事業とするため、昨年度から通年の募集としたことにより、利用促進が図られた。本事業の、活用を更に増やすための方策を検討する。</p>

事務事業評価表

事務事業名	出前教室						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成7年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(3)	
事務事業目的	障害者及び高齢者の学習活動を援助するため、講師が継続的に自宅等を訪問し、学習指導をすることにより、受講者の継続的な学習活動への契機づくりに寄与する。										
実施内容	区内にお住まいの方で、一人で外出困難であり、区が行う講座等への参加が困難な障がい者等（個人・団体）に対し、講師を派遣し、受講者の要望する学習を行う。 ○学習科目 受講者の希望による。 ○募集 年度を前期、後期に分け各期ごとに行う。受講希望者は、指定された期日までに申請書を提出する。 ○受講の決定 申請書の審査による。 ○講師派遣回数 1期8回まで。1回2時間を標準とする。1学習内容につき最長4期まで。 ○講師謝礼 1回10,000円を限度 ○自己負担 教材費、施設使用料等 ○講師派遣内容 パソコン、書道、絵画、絵てがみ、フラワーアレンジメント、調理実習など										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	受講者満足率	—	%	目標	95	95	95
				実績	100	100	100
活動	受講（個人・団体）数	—	件	目標	27	27	27
				実績	20	26	24
活動	延べ参加者数	—	人	目標	1,200	1,200	1,200
				実績	1,180	1,402	1,198
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	645	820	724
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	1,845	1,610	1,514	
支出	直接事業費 (b)	1,290	1,640	1,448	
	職員人件費 (c)	1,200	790	790	
		業務量 (人)	0.15	0.10	0.10
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	143	100	90	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	143	100	90	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	2,633	2,530	2,328	

単位当たりコスト (円)	H29	H30	R1
単位の定義	延べ参加者数 (人)		
実績数値 (g)	1,180	1,402	1,198
単位あたり区単コスト (a/g)	1,564	1,148	1,264
単位あたりコスト (f/g)	2,231	1,805	1,943

実施状況 に対する評価	受講者数の増減が見受けられるが、受講者からの満足度は高いため、一人での外出が困難な方や、障害がある方に対する学習活動の契機づくりに寄与するという事業の目的は、概ね達成できていると考えられる。
今後の方向性 【改善】	継続的に本事業を利用する団体もあり、学習活動の契機づくりに寄与するとの事業目的は果たしているが、今後は新たな受講者の掘り起こしを図る必要もある。 また、利便性の向上のために、事業内容に類似性がみられる生涯学習援助制度との受付窓口の統合等の検討を行う。

事務事業評価表

事務事業名	成人対象講座						担当部	教育委員会事務局	関係課	—
							担当課	生涯学習課		
開始年度	昭和25年度						個別計画	—		
根拠法令	社会教育法									
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(6)
事務事業目的	<p>○地域の課題を解決するための糸口を発見し、豊かなまちづくりを担う力を身につける。 ○継続的・系統的な学習意欲をもち、自ら学習を組み立てる力や自己表現力を養う。 ○同じ課題や学習要求をもつ者同士が人間関係を作り、団体活動や地域活動をする契機とする。</p>									
実施内容	<p style="text-align: center;">様々な事業を通して、区民に学習機会及び社会教育活動の機会を提供する。</p> <p>【主な事業】 ○わがまち楽習会（4地域で15回） ○ふれあいスポーツ事業（3学び交流館で2種目、112回） ○初心者体験講習会（3学び交流館で8種目、13回） ○ロビーコンサート（1学び交流館で1回） ○「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動支援事業（7回）</p>									

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	参加者満足度	好評数/アンケート回答数×100	%	目標	95	95	95
				実績	90	92	89
活動	講座参加者数	全講座の延参加者数	人	目標	11,000	3,650	4,200
				実績	3,535	4,278	3,860
活動	講座数	全講座の実施本数	本	目標	35	35	35
				実績	38	43	16
活動	講座実施回数	全講座の延実施回数	回	目標	180	160	160
				実績	149	172	148
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	409	328	212
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	12,590	12,430	12,100	
支出	直接事業費 (b)	1,559	1,461	1,111	
	職員人件費 (c)	11,440	11,297	11,201	
		業務量（人）	1.43	1.43	1.43
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	1,359	1,430	1,260	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	1,359	1,430	1,260	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	14,358	14,188	13,572	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	延べ参加者数（人）		
実績数値 (g)	3,535	4,278	3,860
単位あたり区単コスト (a/g)	3,562	2,906	3,135
単位あたりコスト (f/g)	4,062	3,317	3,516

実施状況に対する評価	<p>「わがまち楽習会」については、実施団体は減少したが実施回数が増えたことにより、参加者数が増加しており、区民に対し、お住まいの地域の課題を見据えた多様な事業を提供することができた。</p> <p>「ふれあいスポーツ」の参加者数が増加しており、区民のスポーツに対する要望に合致したサービスの提供をすることができた。</p> <p>「初心者体験講習会」の実施回数が減少してきている。区民が求める講座内容と実施団体をどのように引き合わせるか、が今後の課題である。</p> <p>「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動支援事業については、新規に取り組む団体（小・中学校PTA）が増えないことや、継続的に取り組むことが困難になってきている状況から、現行の講座による取組の支援の方法を見直していく時期に来ている。各PTAやブロックごとの活動のスケジュールや取組方に寄り添った支援の方法を検討する必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していた成人対象講座全体のうち17回が中止となった。</p>
今後の方向性【改善】	<p>さらに多くの区民が学習に参加できるよう、事業内容と申込方法を見直すとともに、SNS等の様々なツールを活用して周知していく。</p> <p>「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動支援事業については、共催団体である「子どもを犯罪から守るまちづくり活動推進会」との協議を進め、講座スタイルの見直しや取組団体に寄り添った支援を進めていく。</p> <p>「ふれあいスポーツ事業（成人）」については、参加者が固定化しており見直しの時期が来ている。</p>

事務事業評価表

事務事業名	地域教育機関連携事業						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	平成15年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(5)	
事務事業目的	区内外の教育機関や民間生涯学習関連事業者との連携協力を進め、教育機関等のノウハウを活かした公開講座等を開催し、区民の学習機会の拡充を図る。										
実施内容	<p style="text-align: center;">区内及び近隣の大学等の教育機関や民間団体と連携・協働し、共催で公開講座を実施する。</p> <p>【役割分担】 企画・運営・講師・会場等は区内及び近隣の大学等の教育機関や民間団体、募集広報等は区で実施。</p> <p>【令和元年度実施概要】 ○東京聖栄大学及び付属調理師専門学校と共催（17年目）4講座（健康栄養講座・運動実践講座・調理のコツ講座・調理実習） ○共栄学園と共催（16年目）6講座（経営戦略研究・世代を超えた対話・英語学習者ほか）（うち1講座、台風19号の影響により中止） ○国際鍼灸専門学校と共催（15年目）1講座（親子ふれあい教室） ○公益財団法人日本数学検定協会と共催（13年目）8講座（大人の数学講座・親子のための算数講座・算数トライアスロン）（うち1講座、新型コロナウイルスの影響により中止） ○科学体験教室（オドロキ科学箱）（新型コロナウイルスの影響により中止）</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	受講者満足度	(満足した受講者数/アンケート回答者数) × 100	%	目標	95	95	95
				実績	94	95	92
活動	講座受講者数	実績報告書	人	目標	3,000	3,000	1,000
				実績	2,823	839	750
活動	講座実施回数	—	回	目標	26	23	23
				実績	27	19	17
活動	連携教育機関数	—	団体	目標	5	5	5
				実績	5	4	5
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	5,689	4,747	4,851	
支出	直接事業費 (b)	889	402	506	
	職員人件費 (c)	4,800	4,345	4,345	
		業務量（人）	0.60	0.55	0.55
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	570	500	495	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	570	500	495	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	6,259	5,247	5,346	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	受講者数（人）		
実績数値 (g)	2,823	839	750
単位あたり区単コスト (a/g)	2,015	5,658	6,468
単位あたりコスト (f/g)	2,217	6,254	7,128

実施状況に対する評価	<p>各講座とも、受講者の満足度が目標値に近い数値となっており、同一テーマに沿った内容で継続性を持った講座の開催や、受講者からのアンケートを基に受講者の希望や興味を勘案した講座を設定するなど、各地域教育機関が主体的・積極的に講座運営に努めている。</p> <p>なお、台風19号や新型コロナウイルスの影響により一部中止となっている講座もあるため、受講者数は減となっている。</p>
今後の方向性【継続】	<p>各地域教育機関との協議では、協力体制や会場の確保、開催期間等の関係から、現在の規模以上に拡大するのは困難であるとの回答を得ているため、当面は講座回数は現状のままと考えているが、講座内容についてはオンラインを利用した開催など、多様な実施方法を検討し、引き続き各地域教育機関と連携を取りながら充実を図っていく。</p> <p>また、平成30年度まで実施していた東京理科大学公開講座については、相手方の担当部署である生涯学習センターが廃止になった影響で、今後の開催の見通しが立っていないが、引き続き協議をしながら開催の方向を見出していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	学習相談・学習情報の提供						担当部	教育委員会事務局	関係課	—
							担当課	生涯学習課		
開始年度	昭和25年度						個別計画	—		
根拠法令	社会教育法									
予算説明書	会計	—	款	—	項	—	目	—	説明等	—
事務事業目的	個人又はサークルなどで活動している区民が、学習に関する適切な情報やアドバイスを得ることにより、学習活動を深め、団体活動を活性化するよう支援する。									
実施内容	<p>個人又はサークルなどで活動している区民に対して、施設や人材、サークル及び学習機会などの学習情報の提供、並びに、団体運営や学習事業の企画運営などの社会教育に関する相談を行う。</p> <p>生涯学習課及び学び交流館(4館)において、窓口での面談、電話及びメールなどの方法で対応する。</p> <p>学び交流館については、委託業者が対応している。</p> <p>○平成30年度相談件数 (学び交流館) 新小岩：72件 亀有：48件 柴又：8件 水元：11件 (生涯学習課)：93件 計 232件</p>									

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	相談件数	—	件	目標	700	690	600
				実績	586	575	232
活動	相談窓口数	—	箇所	目標	5	5	5
				実績	5	5	5
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	3,265	2,607	3,237	
支出	直接事業費 (b)	0	0	0	
	職員人件費 (c)	3,265	2,607	3,237	
		業務量（人）	0.43	0.33	0.43
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	361	330	342	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	361	330	342	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	3,626	2,937	3,579	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	相談件数（件）		
実績数値 (g)	586	575	232
単位あたり区単コスト (a/g)	5,572	4,534	13,953
単位あたりコスト (f/g)	6,188	5,108	15,427

実施状況に対する評価	<p>学び交流館および生涯学習課における相談件数の減少が見られる。 新たなチラシやポスターを作成して配布したが、学習相談ができることを知らない区民も多いため、一層の周知が必要である。</p>
今後の方向性【改善】	<p>区民の目に留まるようなチラシを作成・配布したり、インターネットを活用するなどして、学習相談ができることやその意義を広く区民に知ってもらえるようにしていく。 また、「団体紹介カード」に登録する団体を増やす方策を検討するとともに、広報かつしかの「区民の広場」に掲載された団体を紹介できる体制を整えるなど、区民が求める学習情報の提供を充実していく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	リーダー育成等						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	生涯学習課			
開始年度	昭和50年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	1	説明等	2(10)	
事務事業目的	<p>同和地区出身者と区民の交流を図り、人権の理解を深めるため交流事業を実施する。また、部落解放同盟東京都連合会葛飾支部の活動に対して助成することにより、同和地区出身者が交流を深め人権意識を高める。</p>										
実施内容	<p>○同和地区出身者と区民の交流事業 子どもキャンプ（2泊3日）、女性子どもレクリエーション（バスレクリエーション日帰り旅行）、子どもまつりを開催する。</p> <p>○補助金 部落解放同盟東京都連合会葛飾支部の活動に対して、事業経費の2分の1を助成する。（平成30年度81千円） 教養講座（ろうけつ染め）が平成25年度をもって廃止されたため、令和元年度現在の対象事業は、 ①子ども会・女性・多文化地域交流活動助成 ②青年学習研究交流活動助成 の2つである。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	事業参加者数	—	人	目標	750	750	750
				実績	728	780	715
活動	事業実施回数	—	回	目標	40	40	40
				実績	39	39	42
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	4,515	5,733	4,992	
支出	直接事業費 (b)	1,315	1,388	1,437	
	職員人件費 (c)	3,200	4,345	3,555	
		業務量（人）	0.40	0.55	0.45
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	380	300	405	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	380	300	405	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	4,895	6,033	5,397	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	事業参加者数（人）		
実績数値 (g)	728	780	715
単位あたり区単コスト (a/g)	6,202	7,350	6,982
単位あたりコスト (f/g)	6,724	7,735	7,548

実施状況に対する評価	<p>部落解放同盟東京都連合会葛飾支部との共催事業として、意見交換を行いながら実施している。事業の実施回数について目標に近い成果を上げている。参加者については目標数を下回ったもの子どもまつりについては、過去最高の参加人数であった昨年を上回る参加者であり、子どもキャンプ等参加者の減少した事業についても、子ども達のみで参加した等の理由があり、保護者の方からの理解と信頼が深まった結果といえる。また葛飾支部におけるリーダーの世代交代が進んでおり、人権意識を高めるためのリーダーを育成するという事業目的は、達成できていると評価している。</p>
今後の方向性【継続】	<p>これまで、地域住民及び同和地区出身者との交流、相互理解を第一にキャンプや、子どもまつり等で触れ合ってきたが、コロナウイルスによる社会環境の変化に対応するべく、これまでの事業を見直す必要があると考える。最も重要な地域住民及び同和地区出身者との交流、相互理解を念頭に開催場所の変更や、活動内容の改善を行い、今後もリーダーのさらなる育成と活動の充実を図る。</p>

事務事業一覧表

事務事業名				担当部		関係課	コスト内訳等（千円）				活動指標（b）						
				担当課													
予算説明書（会計、款、項、目、説明等）																	
事業内容																	
ICT推進事業				教育委員会事務		—											
一般				生涯学習課													
平成17年度に「暮らしを彩るIT講習会」としてNPO法人ユニコムかつしかとの協働で実施。 ※平成23年度から「暮らしを彩るパソコン教室」に名称変更。 【平成29年度以降～令和元年度の実施内容】 ○参加者の減少により、令和元年度をもって毎月の実施を取りやめることとなった。今後、年に何回かのITを用いた親子講座等を実施できないか協議中。 下記、令和元年度実施内容 ○役割分担 区：会場の確保、広報紙などによる周知 NPO：原則上記以外の全て ○パソコン初体験・ワード・エクセル・インターネット等、概ね8コースを毎月実施。令和元年度から、新たに小学生を対象としたプログラミング教室を、NPO法人との共催で開催。 ○1コース4日間8時間、1コース2日間4時間等（初級・応用で異なる） ○つつみ憩い交流館・NPO事務所（立石）※令和2年1月～NPO事務所が工事のためつつみ憩い交流館のみで開催 ○定員6人程度 ○対象 区内在住・在勤・在学者（平成25年度から年齢制限なし）							収入	特定財源	0	0	0	講座受講者数	人	511	422	311	
								一般財源	400	1,185	1,185						
								事業費	0	0	0						
								支出	人件費	400	1,185	1,185	講座実施回数	コース	164	139	99
									業務量(人)	0.05	0.15	0.15					
									間接費	0	0	0					
									調整額	48	150	135					
									トータルコスト(a)	448	1,335	1,320					
									単位当たりコスト(円)(a/b)	876	3,164	4,244	受講定員	人	1,530	752	581

事務事業一覧表

事務事業名	担当部 担当課		関係課	コスト内訳等（千円）			活動指標（b）						
	予算説明書（会計、款、項、目、説明等）			H29	H30	R1	単位	H29	H30	R1			
事業内容													
学び交流まつり	教育委員会事務局	—		収入	特定財源	0	0	0	来場者数	人	4,702	6,840	8,065
	生涯学習課			一般財源	5,984	5,919	5,797						
一般	8	6	1		事業費	159	159	160					
2(7)				支出	業務量(人)	0.75	0.75	0.75	参加団体数	団体	118	146	152
<p>学び交流館の利用団体が主体となり、日頃の活動成果の発表と、団体同士や地域住民との交流を目的として、4学び交流館（新小岩・亀有・柴又・水元）でまつりを開催する。亀有学び交流館においては、「亀参初あそび」と称した小規模の館まつりも実施した。</p> <p>企画・運営は、各館の利用団体協議会が組織する実行委員会が担う。教育委員会は、会場の確保、広報、企画・運営への助言を行う。</p> <p>開催日数：学び交流まつりは、各会場2日間、延べ8日間。 亀参初あそびは、延べ1日間。</p>					間接費	0	0	0					
								調整額	665	700	594		
				トータルコスト(a)	6,649	6,619	6,391						
				単位当たりコスト(円)(a/b)	1,414	968	792	新規参加団体の数	団体	6	8	13	

事務事業一覧表

事務事業名				担当部		関係課	コスト内訳等（千円）				活動指標（b）														
				担当課																					
予算説明書（会計、款、項、目、説明等）																									
事業内容																									
								H29	H30	R1															
											単位	H29	H30	R1											
寄贈・収集資料整理				教育委員会事務局		—		収入			収蔵資料の累計点数														
				生涯学習課												特定財源	0	0	0	点	206,911	207,175	208,156		
一般	8	6	2	2(12)																					
○資料収集 博物館が調査・研究の対象とする地域史（考古・歴史・民俗・自然等）の有形・無形の諸資料や天文に関する最新情報や当館で観測された天体現象の記録を収集し、資料の形状や性質に応じた適切な保管をする。 【主な収蔵資料】 考古：葛西城跡等区内出土遺物、窯業等産業関連資料等 歴史：堀切菖蒲園関連浮世絵、区郷土資料室移管及び寄贈古文書、帝釈人車鉄道関係、旧教育資料館収蔵資料、旧家所蔵資料、戦時生活道具 民俗：葛飾区旧景写真、郷土玩具、農機具、工具、生活道具 天文：館撮影天文画像、スライド ○聞き取り調査 資料収集聞き取り調査については随時実施							生涯学習課		支出					収蔵資料整理件数											
											事業費								1,172	3,046	1,504	件	25,054	32,054	38,050
											人件費								0	1,085	1,890				
											業務量(人)								0.00	0.20	0.30				
											間接費								1,562	1,308	2,328				
調整額			0	50	135																				
							トータルコスト(a)			2,734	5,489	5,857													
							単位当たりコスト(円)(a/b)			13	26	28	—												

事務事業一覧表

事務事業名				担当部		関係課	コスト内訳等（千円）			活動指標（b）						
				担当課												
予算説明書（会計、款、項、目、説明等）							H29	H30	R1	単位	H29	H30	R1			
事業内容																
工芸教室				教育委員会事務局		—	収入	特定財源	0	0	0	講座参加者数	人	246	216	204
				生涯学習課				一般財源	779	779	779					
一般	8	6	1	2(9)			支出	事業費	384	384	384	講座実施回数	回	24	24	24
部落解放同盟東京都連合会との共催により、毎月2回、木曜日（原則として第2、第4）に同和対策仮奥戸集会所に工芸指導者と助手の2人を講師として招き、事業を実施している（年24回実施）。								人件費	395	395	395					
							業務量(人)	0.05	0.05	0.05						
							間接費	0	0	0						
							調整額	48	50	45						
							トータルコスト(a)	827	829	824	—	—	—	—		
							単位当たりコスト(円) (a/b)	3,360	3,838	4,039	—	—	—	—		

事務事業一覧表

事務事業名	担当部 担当課		関係課	コスト内訳等（千円）			活動指標（b）					
	予算説明書（会計、款、項、目、説明等）			H29	H30	R1	単位	H29	H30	R1		
事業内容					H29	H30	R1					
社会教育委員の会議の運営	教育委員会事務局 生涯学習課		—	収入	特定財源 0	0	0	会議開催数	回	13	12	12
一般	8	6	1	一般財源	4,046	4,023	4,027					
1(1)				支出	事業費	846	863	867				
【概要】 社会教育法第15条に基づき、平成8年度に条例設置した。委員数8人（条例定数10人以内）。任期2年。 【主な職務】 (1) 社会教育に関し教育委員会に助言するため、社会教育に関する諸計画の立案、意見具申、調査研究を行う。 (2) 社会教育関係団体に対する補助金の交付について意見を述べる。 【活動内容】 令和元年度は12回の会議（うち4回は正副議長の会議）を開催し、協議を行った、				人件費	3,200	3,160	3,160	—	—	—	—	
				業務量(人)	0.40	0.40	0.40	—	—	—	—	
				間接費	0	0	0	—	—	—	—	
				調整額	380	400	360					
				トータルコスト (a)	4,426	4,423	4,387					
				単位当たり コスト(円) (a/b)	340,462	368,583	365,583					

施策番号	2102	成果指標					
		指標名	単位	区分	H29	H30	R1
施策名	多様な手段で、図書サービスを受けられるようにします	最近1年間に葛飾区内の図書サービスを利用したことのある区民の割合	%	目標	35.0	35.0	35.0
				実績	34.2	34.0	31.7
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
		—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

		事務事業	担当課	区分	頁
	計画	図書返却ポスト及び図書サービスカウンターの設置	中央図書館	◎	1314
		オンラインサービス（ICTを活用した図書館サービス）	中央図書館	◎	1316
		子ども読書活動推進	中央図書館	◎	1318
		図書館ボランティア育成事業	中央図書館	◎	1320
		図書館報等印刷	中央図書館	◎	1322
		図書資料等提供	中央図書館	◎	1324
		読書活動啓発事業	中央図書館	◎	1326
		維持管理（図書館）	中央図書館	○	1328
		図書館業務委託（中央図書館カウンター業務）	中央図書館	○	1329

※「計画」は、後期実施計画に位置付けている事務事業であることを表します。

※「◎」は、事務事業評価表を作成した事務事業であることを表します。

※「○」は、事務事業一覧表を作成した事務事業であることを表します。

事務事業評価表

事務事業名	図書返却ポスト及び図書サービスカウンターの設置						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	平成27年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(11)	
事務事業目的	<p>図書館利用者が、より便利で使いやすい図書館機能の充実を図るため、「図書返却ポスト」や「サービスカウンター」を設置する。</p>										
実施内容	<p>【概要】 図書館利用者の利便性を図るため、図書館へ行かずに借りた図書を返却できる「図書返却ポスト」を設置する。また、図書サービスの一部（予約本等の貸出・返却）を実施する「サービスカウンター」を整備し、より便利で使いやすい図書館機能を充実する。</p> <p>【活動実績】</p> <p>①図書返却ポスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、「新小岩駅東北広場」に設置した。 ・平成28年度は、「堀切地区センター」「青砥駅高架下公共広場」「新柴又駅前」に設置した。 ・平成29年度は、「四ツ木駅前」の設置に向け、準備した。 ・平成30年度は、「四ツ木駅前」に設置し、「京成高砂駅前」の設置に向け、準備した。 ・平成31年度（令和元年度）は「京成高砂駅前」に設置した。 <p>②図書サービスカウンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、亀有リリオ館7階での開設に向け、検討した。 ・平成29年度は、亀有リリオ館7階での開設に向け、準備した。 ・平成30年度は、亀有リリオ館7階に開設した。 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	図書返却ポストの利用数	図書返却ポストへ返却された資料冊数	冊	目標	76,600	117,900	120,000
				実績	94,600	128,058	167,037
成果	図書サービスカウンター利用数	予約資料の貸出点数	点	目標	10,980	16,600	25,000
				実績	0	30,681	37,835
活動	候補地の調査・選定・検討・検証	—	—	目標	調査・選定・検討・検証	調査・選定・検討・検証	調査・選定・検討・検証
				実績	調査・選定・検討・検証	開設	調査・選定・検討・検証
活動	図書返却ポストの設置	—	箇所	目標	—	2	—
				実績	0	1	1
活動	図書サービスカウンターの設置	—	箇所	目標	1	1	—
				実績	0	1	0
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	(a)	29,798	30,217	27,331
支出	直接事業費	(b)	27,398	26,267	24,961
	職員人件費	(c)	2,400	3,950	2,370
		業務量（人）	0.30	0.50	0.30
	間接費	(d)	0	0	0
	調整額	(e)	285	500	270
	減価償却費		0	0	0
	金利		0	0	0
	退職給与引当		285	500	270
	（控）コスト対象外		0	0	0
	トータルコスト	(f=b+c+d+e)	30,083	30,717	27,601

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1	
単位の定義	図書返却ポスト及び図書サービスカウンター設置数			
実績数値	(g)	0	2	1
単位あたり区単コスト	(a/g)	—	15,108,500	27,331,000
単位あたりコスト	(f/g)	—	15,358,500	27,601,000

実施状況に対する評価	<p>【図書サービスカウンター】 指標としている「予約資料の貸出点数」について、増加傾向が続いている。区民にも周知されてきたことや駅前という立地性等から利用率が上昇しているものとみられる。</p> <p>【図書返却ポスト】 平成31年度（令和元年度）は「京成高砂駅前」に設置した。同駅は区内で有数の乗降客数誇ることもあり、利用率も大幅に上昇している。</p>
今後の方向性【継続】	<p>【図書サービスカウンター】 リリオ亀有サービスカウンター事業者と更なるサービス向上に向け調整する。新たな図書サービスカウンター設置に向け、候補地の調査及び検討を進める。</p> <p>【図書返却ポスト】 平成26年度から設置を進め、一定数の整備を行った。 今後も新たな設置に向け検討は進めるものの、現状の図書返却ポストの更なる利用率向上に向け、図書館HPや配布物等を活用し、周知活動を図る。</p>

事務事業評価表

事務事業名	オンラインサービス（ICTを活用した図書館サービス）						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和63年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(6)	
事務事業目的	利用者が、開館時間・場所にとらわれず図書館の資料を検索・予約できる。また、貸出・返却手続きの簡素化を図り、利便性を向上させる。										
実施内容	<p>【概要】 区民に図書館サービスを広く周知し、区民の図書館利用における利便性を向上するために図書館のICT化を実施する。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和63年6月葛飾区立図書館全館オンラインサービス開始 ・平成16年1月葛飾区立図書館のホームページ及びインターネットによる蔵書検索・予約を開始。平成18年8月、平成21年9月にホームページをリニューアル。 ・平成19年利用者が使用するインターネット利用可能なパソコンを中央図書館及び地域図書館導入。 ・平成21年9月に全館ICタグ、自動貸出機（地区図書館を除く）、中央図書館に自動返却仕分機、予約棚（セルフ予約受取システム）を導入。メールアドレス登録者が希望すれば返却期限のお知らせなどをメールサービスするなど、利用者の利便性を高める。 ・平成21年10月、中央図書館に座席管理システムを導入。平成26年7月機器更改。 ・平成25年度地域資料をデジタル化し、ホームページからも検索・一部閲覧可能とする。 ・平成27年6月 葛飾区図書館業務システムの機器更新。 ・平成27年6月 中央図書館公衆無線LANの導入（個人閲覧席等）。 ・平成28年10月 ホームページに「読書記録」・「お気に入り登録」機能を追加。 										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	インターネット利用による予約率	インターネット予約数÷予約件数×100	%	目標	79	80	81
				実績	79	80	82
成果	自動貸出機の利用率	自動貸出機貸出冊数÷総貸出冊数×100	%	目標	64	64	65
				実績	63	65	64
活動	新規インターネットサービス利用登録者数	実績数	人	目標	21,000	21,000	18,000
				実績	17,790	17,588	16,566
活動	図書館ホームページ・データベースへのアクセス件数	実績数	件	目標	2,290,000	2,900,000	2,600,000
				実績	2,821,527	2,537,198	2,221,446
活動	予約確認連絡における、電話連絡以外の連絡方法の割合	予約確認連絡が電話連絡以外の人÷予約件数×100	%	目標	92	92	93
				実績	91	92	92
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	116,513	111,044	187,868	
支出	直接事業費 (b)	102,932	99,187	174,824	
	職員人件費 (c)	12,800	11,060	12,245	
		業務量（人）	1.60	1.40	1.55
	間接費 (d)	781	797	799	
	調整額 (e)	1,520	1,400	1,395	
	減価償却費	0	0	0	
		金利	0	0	0
		退職給与引当	1,520	1,400	1,395
		（控）コスト対象外	0	0	0
トータルコスト (f=b+c+d+e)	118,033	112,444	189,263		

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	登録者(団体)数（人）		
実績数値 (g)	220,760	222,625	219,832
単位あたり区単コスト (a/g)	528	499	855
単位あたりコスト (f/g)	535	505	861

実施状況に対する評価	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年3月から図書館では一部サービスのみを行う縮小開館となったことにより、図書館ホームページ・データベースへのアクセス件数が減少した。
今後の方向性【改善】	令和2年度のシステムリプレースを機に図書館HPを刷新し、アクセス数の向上を図っていく。

事務事業評価表

事務事業名	子ども読書活動推進						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	平成17年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(10)	
事務事業目的	小・中学校、幼稚園、保育園、保健センター、児童館等と連携しながら、子どもたちが本に親しみをもち、自主的に読書活動を行えるようにする。										
実施内容	<p>【概要】 葛飾区在住の乳幼児から中学生までの発達期の子どもたちに対して、保育園・幼稚園・学校や児童館・保健センター等関係部署と連携して、各世代に、年齢に合わせて図書館が作成している推薦図書の紹介を行うなど、読書活動への機会の提供する。</p> <p>【活動内容】 ○ブックスタート事業 保健センター等で行う乳幼児健康診査(3～4か月)でブックスタートパック(絵本1冊・アドバイス・ブックレット・図書リスト・図書館館案内等)を手渡し、絵本の読み聞かせを行う。(平成17年度から実施) ○セカンドブック事業 3歳児を対象として、保健センターから送付される3歳の「3歳児健診のお知らせ」に引換券を同封し、図書館で絵本1冊とリーフレット、図書館の行事案内を手渡す。(平成25年度から実施) ○かつしかっ子ブック事業 小学校1年生及び中学校1年生を対象に、児童・生徒が推薦図書「かつしかっ子ブック」から希望した図書を、学校等を経由して配布する。(平成27年度から実施) ○学校支援団体図書配送 調べ学習用の図書を学校支援図書として各学校へ配送する。 ○読書手帳の配布 ブックスタート事業及びセカンドブック事業対象乳幼児、かつしかっ子ブック事業の小学校1年生にお子さんに読み聞かせをした記録や児童が読書をした記録を書き込みすることができる読書手帳を配布する。(平成29年度から実施)また、令和元年度より、他年齢の子にも図書館で配布している。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	小学校4年生の平均読書数	区学習意識調査	冊	目標	10	10	10
				実績	9	9	9
活動	学級配送コンテナ数	—	箱	目標	2,300	1,500	750
				実績	1,452	519	481
活動	0～2歳児の貸出数	ブックスタート対象者(3～4か月)から2歳の乳幼児への貸出数	冊	目標	—	—	—
				実績	25,267	26,926	22,535
活動	3～5歳児の貸出数	セカンドブック対象者(3歳)から就学前の幼児への貸出数	冊	目標	—	—	—
				実績	95,591	99,955	99,460
活動	6～15歳の貸出数	かつしかっ子ブック対象者(小1・中1)を含めた小～中学生への貸出数	冊	目標	—	—	—
				実績	427,744	399,558	368,256

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	48,643	48,893	48,254	
支出	直接事業費 (b)	13,443	14,133	14,294	
	職員人件費 (c)	35,200	34,760	33,960	
		業務量（人）	4.40	4.40	4.40
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	4,180	4,400	3,735	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	4,180	4,400	3,735
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	52,823	53,293	51,989	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	配布数（ブックスタート・セカンドブック・かつしかっ子ブック）件		
実績数値 (g)	12,788	12,483	11,987
単位あたり区単コスト (a/g)	3,804	3,917	4,026
単位あたりコスト (f/g)	4,131	4,269	4,337

実施状況に対する評価	<p>保育園や乳幼児の各種健診を行う保健センター等の関係部署と連携し、乳幼児の保護者等へ読書の楽しさ、読書環境の大切さをブックスタート事業・セカンドブック事業を通して伝えている。</p> <p>両事業の対象者を含む、0～5歳児の貸出数については増加傾向にあったが、令和元年度については年度末から発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大による保健センターでの乳幼児健診の中止や図書館の業務縮小の影響を受け、貸出数が減少となった。</p> <p>小・中学生（6～15歳）については、ブックスタート・セカンドブックに続き、小1・中1という節目の年齢を対象としたかつしかっ子ブック事業で読書推進を支援しているところだが、アンケートの結果では事業に対しては良い評価を得ているものの、貸出数には繋がっていないことから事業の見直しを検討している。</p> <p>学級配送コンテナ数は、令和元年度のお花茶屋図書館改修工事や小中学校の休校の影響により、目標を下回る結果となった。</p> <p>令和元年度「区学習意識調査」では、成果指標の対象となっている4年生の読書冊数が、昨年度9.3冊から9.2冊と微減、5年生7.2冊、6年生では5.8冊、中学校1年生3.8冊、2年生3.1冊、3年生2.3冊と、学年が上がるにつれ1カ月に読む本の平均冊数は減少している。</p>
今後の方向性【継続】	<p>引き続き各種関係部署と連携しつつ、保護者等へ読書活動の必要性を働きかける。また、配布対象外となっている年齢の子どもに対しても読書手帳を配布し、より読書に関心を持ってもらうようなPR活動を充実させる。</p> <p>令和2年度当初、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う乳児健診の委託により、ブックスタート事業は保健センター等での配布から引換券による図書館での配布に切替えた。今後もブックスタート事業及びセカンドブック事業の保護者へのPRを行い、ブックスタートパックの配布を継続するとともに、図書館来館時における0歳からの利用カード登録及び図書館利用案内の周知、イベントへの参加促進を行うことにより、利用登録数及び増加、図書館利用及び貸出数の増加を図る。また、学校図書館・公共図書館連絡会及びリニューアルした図書館ホームページにおける「学校連携サービス」ページの新設について、各学校に周知することにより、学校図書配送の利用率向上を図る。</p>

事務事業評価表

事務事業名	図書館ボランティア育成事業						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和47年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(9)	
事務事業目的	乳幼児から高齢者や障害がある方など、様々なニーズに対してサービスを行えるよう、ボランティアを養成する。										
実施内容	<p>【概要】 乳幼児から高齢者、障害がある方など、誰もが本に親しめる環境を整備することを目的に、図書館ボランティアを育成する。ボランティアの資質向上とボランティア人数の拡大のために講習会や講座を開催し、受講後には、区の共催事業への参加や、ボランティア団体への入会を促して、ボランティア活動継続へつなげ、区民の読書活動の啓発に努める。</p> <p>【活動内容】 読み聞かせボランティア講座、パソコンを使った絵本づくりボランティア講座、ブックスタート公開講習会、音訳・点訳ボランティア養成講座等を開催し、様々なボランティア育成に取り組む。 中央図書館の開館に伴い、平成21年6月にボランティア団体「葛飾図書館友の会」が発足した。「葛飾図書館友の会」は、図書館でのボランティア活動や学習会・交流会などを通じて、図書館がいつも区民のための場であるよう守り育て、また会員が生涯学習の場として共に学ぶことを目的として活動している。 また、読み聞かせボランティア講座等受講者によるボランティアグループも発足し、図書館での活動を行っている。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
成果	ボランティア登録数	区立図書館にボランティア登録している数	人	目標	380	420	420
				実績	416	395	456
活動	ボランティア育成講座参加者数	講座参加者の延べ人数	人	目標	460	500	500
				実績	498	432	457
活動	図書館ボランティア活動回数	ボランティアとして活動した回数(延べ回数)	回	目標	1,600	1,900	2,000
				実績	2,047	2,252	2,227
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	8,180	8,066	8,071	
支出	直接事業費 (b)	180	166	171	
	職員人件費 (c)	8,000	7,900	7,900	
		業務量（人）	1.00	1.00	1.00
	間接費 (d)	0	0	0	
	調整額 (e)	950	1,000	900	
	減価償却費	0	0	0	
	金利	0	0	0	
	退職給与引当	950	1,000	900	
	(控) コスト対象外	0	0	0	
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	9,130	9,066	8,971	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	ボランティアとして活動回数（人）		
実績数値 (g)	2,047	2,252	2,227
単位あたり区単コスト (a/g)	3,940	3,582	3,624
単位あたりコスト (f/g)	4,460	4,026	4,028

実施状況に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の読み聞かせボランティアは、毎回、養成講座の受講希望者も多く、受講後は、ブックスタートの活動や読み聞かせを行っているボランティアグループに入会しての活動のほか、新規にグループを立ち上げ学習会を行いながら、図書館の絵本読み等のイベントに積極的に参加している。 ・令和元年度の宅配利用登録者数は前年度と比較して変動はないものの、宅配サービスの利用数は増加傾向にあり、利用者から好評を得ている。一方で、課題として地域によってボランティア登録数にばらつきがあることから、日によってはボランティア活動ができず、職員が対応する必要があることから、宅配サービスについて周知するとともに、ボランティア登録者数を増やすための取り組みについて工夫する必要がある。
今後の方向性【継続】	<p>各種ボランティアの活動を図書館がさらにPRすることにより、ボランティア参加者を増やすとともに、活動中のボランティアにはフォローアップ、スキルアップの支援を引き続き行っていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の防止を考慮して、ボランティアの意向を聞きながら行事へ参加・活動をしていただく。</p>

事務事業評価表

事務事業名	図書館報等印刷						担当部	教育委員会事務局	関係課	—
							担当課	中央図書館		
開始年度	昭和43年度						個別計画	—		
根拠法令	—									
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(7)
事務事業目的	本や図書館行事等を紹介することで、読書の意欲を高め、一層の図書館利用（来館・貸出）を促す。									
実施内容	<p>【概要】 図書館をPRするとともに、利用を促進するための配布物を作成し、来館者数や新規登録者数の増につなげる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 図書館案内 としょかんだより（一般向け） 2 子どもたちの成長段階や各年代に合った推薦リストの配布 「むぎわらぼうし」（小学生向け）、「ドッグイアーズ」（中・高校生向け） 									

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	年間図書館来館者数	—	人	目標	3,100,000	3,100,000	3,100,000
				実績	2,945,429	2,779,825	2,640,055
活動	小学生延べ新規登録者数	—	人	目標	—	—	—
				実績	1,862	1,811	1,571
活動	中・高校生延べ新規登録者数	—	人	目標	—	—	—
				実績	596	534	522
活動	一般延べ新規登録者数 (19歳以上)	—	人	目標	—	—	—
				実績	8,499	8,356	7,537
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）		H29	H30	R1	
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	8,562	8,378	9,355	
支出	直接事業費 (b)	1,641	1,527	1,712	
	職員人件費 (c)	6,400	6,320	7,110	
		業務量（人）	0.80	0.80	0.90
	間接費 (d)	521	531	533	
	調整額 (e)	760	800	810	
		減価償却費	0	0	0
		金利	0	0	0
		退職給与引当	760	800	810
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト (f=b+c+d+e)	9,322	9,178	10,165	

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1
単位の定義	新規登録者数（人）		
実績数値 (g)	10,957	10,701	9,630
単位あたり区単コスト (a/g)	781	783	971
単位あたりコスト (f/g)	851	858	1,056

実施状況に対する評価	<p>年々、来館者数及び新規登録者数は減少している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で令和2年3月から1か月の縮小開館としたが、これに伴う来館者数や新規登録者数の減少は影響があったものの、例年の減少部分については、原因を分析し、根本的な改善が求められる。</p>
今後の方向性【改善】	<p>来館者数や新規登録者数を増やすためには、図書館アンケートを元に区民のニーズを分析し、PR活動の拡大や方法を工夫していく必要がある。印刷物の配布では、なかなか利用者の増加に繋がらない現実があると考察されるので、電子媒体等を活用しながら、PRを推進する。</p> <p>また、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響もあり、来館者数及び新規登録者数の上昇が難しい中においても、上と同様に図書館利用に興味を持ってもらい利用者増加を図るための取組を行う。</p>

事務事業評価表

事務事業名	図書資料等提供						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和24年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(5)	
事務事業目的	<p>快適で、利便性の高い学習環境を維持し、区民の読書活動をはじめとする学習や生活に必要な資料や情報、心豊かに余暇を過ごすための図書資料等を、区民の誰もが自由に入手できるよう図書サービスを行う。</p>										
実施内容	<p>【概要】 利用者のニーズに沿った資料を提供していくために、図書資料等の充実を図る。</p> <p>【活動内容】 図書館資料(図書・雑誌・新聞・CD・DVD・ビデオ・カセット・デージー等)の収集・保存・閲覧・貸出のほか、男女平等推進センターとオンライン化による連携及び、都内の図書館から相互貸借サービスを行っている。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	蔵書数	—	冊	目標	1,400,000	1,350,000	1,350,000
				実績	1,344,861	1,358,773	1,382,933
活動	新規蔵書数	—	冊	目標	83,000	80,000	80,000
				実績	79,640	77,339	75,054
活動	年間図書資料貸出数	—	冊	目標	—	—	3,400,000
				実績	3,201,080	3,126,085	2,996,361
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳（千円）			H29	H30	R1
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	1,883	1,767	1,742
	一般財源	(a)	601,474	588,157	601,019
支出	直接事業費	(b)	155,731	150,490	159,234
	職員人件費	(c)	156,000	149,925	148,300
		業務量（人）	19.50	19.50	19.40
	間接費	(d)	291,626	289,509	295,227
	調整額	(e)	18,525	18,250	16,065
	減価償却費	0	0	0	
		金利	0	0	0
		退職給与引当	18,525	18,250	16,065
		(控) コスト対象外	0	0	0
	トータルコスト	(f=b+c+d+e)	621,882	608,174	618,826

単位当たりコスト（円）	H29	H30	R1	
単位の定義	サービス提供回数（年間図書資料等貸出数）（冊）			
実績数値	(g)	3,201,080	3,126,085	2,996,361
単位あたり区単コスト	(a/g)	188	188	178
単位あたりコスト	(f/g)	194	195	184

実施状況に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として令和2年3月1日～31日まで縮小開館（予約資料の貸出のみ）を行ったため、1か月平均分の貸出数が例年より下がった。</p> <p>保存庫を新宿図書センターから水元図書館へ移管したことに伴い、目標蔵書数を平成30年度から減らしたが、新規蔵書を確実に伸ばし、すでにその目標は達している。</p>
今後の方向性【継続】	<p>利用者の図書館へのニーズは、資料の貸出しだけではなく、「課題解決が出来る図書館」として、閲覧席での調べものや学習の場へと変化してきていることから、貸出用資料以外にも、参考資料や専門書等の充実を図る。</p> <p>また、常に新しい情報を提供するために、計画的に蔵書を新刊に入れ替え、古いものを除籍していく。</p> <p>さらに、東京理科大学葛飾図書館、及び都内図書館との連携強化を図り、幅広い内容の資料提供を目指す。</p>

事務事業評価表

事務事業名	読書活動啓発事業						担当部	教育委員会事務局		関係課	—
							担当課	中央図書館			
開始年度	昭和42年度						個別計画	—			
根拠法令	—										
予算説明書	会計	一般	款	8	項	6	目	2	説明等	1(8)	
事務事業目的	多様な読書活動を提供し参加者数を増やすことにより、図書館利用者数及び図書資料貸出数の増につなげる。										
実施内容	<p>【概要】 本に興味を持ち、読書活動を始めきっかけづくりを目的として、幼児から大人まで、障害がある方など、誰もが参加できる事業を実施する。</p> <p>【活動内容】 ①講演会 ②おはなし会 ③絵本読みの会 ④園招待・訪問 ⑤学級招待・訪問・図書館見学 ⑥職場体験 ⑦一日図書館員（子ども司書認定）⑧子ども読書の日イベント ⑨小さい子向けおはなし会 ⑩わらべうたの会 ⑪外国語のおはなし会 ⑫バリアフリー（手話付き）おはなし会 ⑬児童映画会 等。</p> <p>【過去の改善実績】 子どもの読書活動推進のため、事業の実施回数を増やすとともに、PR活動の拡大に努め、参加者の増へとつなげた。</p>										

指標		指標の根拠	単位	区分	H29	H30	R1
活動	年間図書資料貸出数	—	冊	目標	3,400,000	3,400,000	3,400,000
				実績	3,201,080	3,126,085	2,996,361
活動	年間図書館来館者数	—	人	目標	3,100,000	3,100,000	3,100,000
				実績	2,945,429	2,779,825	2,640,055
活動	年間行事参加者数 (講演会・映画会・子ども映画会等)	—	人	目標	65,000	70,000	70,000
				実績	75,393	68,582	59,732
活動	年間行事開催数	—	回	目標	2,800	2,800	2,800
				実績	2,845	2,699	2,430
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

コスト内訳 (千円)			H29	H30	R1
収入	特定 財源	国庫支出金	0	0	0
		都道府県支出金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源 (a)	74,934	72,928	72,546	
支出	直接事業費 (b)	1,126	1,170	2,037	
	職員人件費 (c)	60,800	58,489	57,198	
		業務量 (人)	7.60	7.60	7.54
	間接費 (d)	13,008	13,269	13,311	
	調整額 (e)	7,220	7,130	6,120	
	減価償却費	0	0	0	
		金利	0	0	0
		退職給与引当	7,220	7,130	6,120
		(控) コスト対象外	0	0	0
トータルコスト (f=b+c+d+e)	82,154	80,058	78,666		

単位当たりコスト (円)	H29	H30	R1
単位の定義	延べ参加者数 (各行事) (人)		
実績数値 (g)	75,393	68,582	59,732
単位あたり区単コスト (a/g)	994	1,063	1,215
単位あたりコスト (f/g)	1,090	1,167	1,317

実施状況に対する評価	<p>令和元年度における各行事の延べ参加者数減少については、令和元年10月の台風、令和2年3月の縮小開館によるイベントの中止が影響している。</p> <p>図書館の利用を増やし区民の読書活動に繋げていくためには、イベント参加者減少の原因を分析したうえでの新たな取組みを行うなど根本的な改善が求められる。</p>
今後の方向性【改善】	<p>図書館アンケートやイベント等のアンケートをもとに、区民のニーズを分析し、イベントの実施方法を工夫すべく業務改善を重ねていく。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イベント1回あたりの定員が大幅に減少する中、実施回数の増加やPR活動の拡大などに努め、イベントへの参加者数の増加を図っていくことが必要である。</p>

事務事業一覧表

事務事業名				担当部		関係課	コスト内訳等（千円）				活動指標（b）											
				担当課							単位											
予算説明書（会計、款、項、目、説明等）							H29	H30	R1	H29	H30	R1										
事業内容																						
維持管理（図書館）				教育委員会事務局		—	収入	特定財源	5,450	307,179	50,147	開館日数 （13館分延べ日数）	日	3,800	3,810	3,726						
				中央図書館				一般財源	383,946	421,786	331,671											
一般	8	6	2	1(1)			事業費	368,596	707,796	361,278												
【概要】 区立図書館13館の施設維持管理（中央図書館1・地域図書館6・地区図書館5・図書サービスコーナー1）を行う。（平成29年10月1日新宿図書センターの休館に伴い、平成29年10月17日新宿図書サービスコーナー開設） 【活動内容】 (1) 開館時間①中央図書館・立石図書館（月～土）9時～22時、（日・祝）9時～20時 ②地域図書館（火～土）9時～20時、（日・祝）9時～17時 ③地区図書館・図書サービスコーナー（火～木・土・日）10時～17時、（金曜日）10時～20時 (2) 休館日①月曜日、月曜祝日の場合はその翌日（中央・立石図書館を除く）②館内整理日（第4木曜日）、③年末年始（中央・立石図書館を除く）、④特別整理期間（年1回、中央図書館・地域図書館4日程度、地区図書館2日程度、図書サービスコーナーは無し）⑤地区図書館・図書サービスコーナーは祝日 【過去の改善実績】 中央・立石図書館では、夜間10時まで開館し利用者の利便性を向上させた。また、23年度より年末年始開館を実施した中央図書館（9時～17時）に続き、24年度より立石図書館でも年末年始開館（9時～17時）を実施し、図書館サービスの向上を図った。							支出	人件費	20,800	20,540	20,540											
														業務量(人)	2.60	2.60	2.60					
														間接費	0	629	0					
														調整額	90,814	90,944	90,684					
														トータルコスト (a)	480,210	819,909	472,502					
							単位当たり コスト(円) (a/b)	126,371	215,199	126,812												

事務事業一覧表

事務事業名	担当部 担当課		関係課	コスト内訳等（千円）			活動指標（b）						
	予算説明書（会計、款、項、目、説明等）			H29	H30	R1	単位	H29	H30	R1			
事業内容													
図書館業務委託（中央図書館カウンター業務）	教育委員会事務局		—	収入	特定財源	0	0	0	年間図書館来館者数	人	2,945,429	2,779,825	2,640,055
	中央図書館				一般財源	118,484	121,068	126,405					
一般	8	6	2	1(4)			事業費	110,484	113,168	118,505			
【概要】 平成21年10月の中央図書館の開館に合わせたサービス拡大に伴い、窓口業務や資料貸出、返却、配架、書架整理、雑誌受入、予約者への連絡等を外部委託とした。 【活動内容】 快適で利便性のある図書館施設をさらに利用しやすくするために、中央図書館は開館時間を平日、土曜日を午後10時まで、日曜・祝日を午後8時まで延長し、12月29日・30日も午前9時から午後8時までの開館とした。さらに平成23年度から年末年始（12月31日から1月3日）についても午前9時から午後5時まで開館している。 【過去の改善実績】 中央図書館開館による施設の規模拡大に伴い、窓口業務を委託し、また、駅前という好立地による増大した来館者の案内、貸出、返却業務の対応を円滑に行った。				人件費	8,000	7,900	7,900						
				支出	業務量(人)	1.00	1.00	1.00	年間図書資料貸出数	冊	3,194,124	3,126,085	2,996,361
				間接費	0	0	0						
調整額	950	1,000	900	トータルコスト (a)			119,434	122,068	127,305				
				単位当たり コスト(円) (a/b)	41	44	48						